

令和4年度 第1回在宅医療・介護連携推進会議

次 第

日時 令和4年7月14日（木）午後7時から

場所 Web会議

1 開会

2 議題

- (1) 令和3年度における各事業実施実績について【資料1及び資料2】
- (2) 小金井市在宅医療・介護連携支援室の令和3年度実績について（報告）【資料3】
- (3) 令和4年度における各事業実施予定について【資料4】
- (4) お元気サミット・介護みらいフェス合同事業について
- (5) 各部会における検討状況について【資料5】

3 その他

4 閉会

【配付資料】

- 資料1 令和3年度における各事業実施実績について
- 資料2 令和3年度小金井市在宅医療・介護連携推進に係る研修の実施状況について
- 資料3 小金井市在宅医療・介護連携支援室 令和3年度 事業概要
- 資料4 令和4年度における各事業実施予定について
- 資料5 小金井市在宅医療・介護連携推進会議各部会における検討状況について

令和 3 年度における各事業実施実績について

※ 評価基準

- A：ほぼ事業内容を達成した。
 B：改善、検討を要する点はあるが、事業内容をある程度達成した。
 C：事業内容を達成したとは言えず、現状について大きな課題がある。
 D：未実施

No.	取組	事業概要	事業区分	令和 3 年度 実施予定	評価	実施実績
①-1	小金井市医療資源マップの作成	市民に医療資源に関する情報を共有するため、医療マップを作成の上、配布する。	ア 地域の医療・介護の資源の把握	配布・検討	B	市ホームページで普及啓発を行うとともに、介護福祉課窓口等にて配布。今後、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえて、配架場所を増やしたい。
①-2	介護サービス事業所一覧の作成	市民に介護資源に関する情報を提供するため、介護サービス事業所一覧を作成の上、配布する。	ア 地域の医療・介護の資源の把握	配布・検討	A	6月及び10月に更新作業を実施。介護福祉課窓口で配布
①-3	患者基本情報シートの作成	入院時に病院が使用することを想定した患者基本情報シートを作成し、ケアマネジャーへ配付の上、運用を開始する。	ウ 切れ目のない在宅医療と在宅介護の提供体制の構築推進	運用	—	第1回入退院支援部会で「患者情報基本シート」は使用しないことを決定 第2回同部会で市として新たなシートの作成は行わないことを決定
②-1	在宅医療・介護連携推進会議の実施	地域の医療・介護関係者等が参画する会議を開催し、在宅医療・介護連携の現状を把握・共有し、課題の抽出、対応策を検討する。	イ 在宅医療・介護連携の課題の抽出と対応策の検討	実施	A	3回実施
②-2	小金井もの忘れ相談シートの活用	認知症に関する家族・相談機関が連携して支援を続けるための相談シートの普及啓発を行う。	エ 医療・介護関係者の情報共有の支援	運用・普及啓発	A	市ホームページで普及啓発を行っているとともに、民生委員による75歳・80歳訪問の際に「高齢者福祉のしおり」を配布しており、そちらにも掲載し、普及啓発を図った。その他市窓口にて配布
②-3	主治医連絡票の活用	主治医とケアマネジャーが共有し連携を取りやすくするため、連絡票の普及啓発を行う。	エ 医療・介護関係者の情報共有の支援	運用・普及啓発	A	市ホームページに掲載し、普及啓発を図った。 また、「こがねい医療介護連携ネットワーク」及び「介護支援専門員（ケアマネジャー）向け書式等」のページを新設
②-4	ケアマネタイムの活用	医師と連絡が取りやすい方法、曜日、時間帯等を示した一覧の周知を行う。	エ 医療・介護関係者の情報共有の支援	運用・普及啓発	A	4月に医師会から情報提供を受け、同月中にケアマネ向けにメールにて配信済み。希望者には介護福祉課窓口でも配布

No.	取組	事業概要	事業区分	令和3年度 実施予定	評価	実施実績
②-5	情報共有研修会の実施	医療・介護事業者等の関係機関の情報共有に関する研修の開催、関係機関同士の情報共有の支援等を行う。	エ 医療・介護関係者の情報共有の支援	実施	B	2回実施 詳細は、「資料2」参照
②-6	在宅医療・介護連携支援室の設置	在宅医療・介護連携に関する相談窓口を設置・運営することにより、連携の取組を支援する。	オ 在宅医療・介護連携に関する相談支援	実施	A	支援室を設置し、医療・介護関係者からの相談等に対応 詳細は、「資料3」参照
②-7	在宅医療ケア勉強会の実施	医療・介護事業者等の関係者に対して在宅医療・介護連携に関する研修等を実施する。	カ 医療・介護関係者の研修	3回以上実施	A	4回実施 詳細、「資料2」参照
②-8	北多摩南部保健医療圏リハビリテーション実施機関ナビの作成協力及び普及啓発	北多摩南部保健医療圏地域リハビリテーション支援センターが作成する実施機関ナビの作成協力・普及啓発を行う。	ク 在宅医療・介護連携に関する関係市区町村の連携を行う。	普及啓発	A	9月に実施機関ナビの更新のため、確認依頼を受け、小介連へ照会の上、10月に回答を送付。3月に更新を実施した旨、連絡を受けた。
②-9	近隣市在宅医療・介護連携支援室等との情報交換	近隣市の在宅医療・介護連携支援室職員との情報交換を行い、自治体間での連携を強化する。	ク 在宅医療・介護連携に関する関係市区町村の連携	実施	B	電話・訪問・MCSのグループにて連携・情報共有を実施。コロナ禍であり、個別訪問や各市集まる等での情報提供は未実施
③-1	お元気サミットin小金井の開催	在宅医療・介護連携に関する情報の普及啓発のため、講演会、シンポジウム等を開催する。	キ 地域住民への普及啓発	講座満足度77%	B	令和3年11月10日及び11日に小金井 宮地楽器ホールにて「お元気サミット・介護みらいフェス展示会」を実施 来場者 211人 アンケート未実施
③-2	在宅療養についてのリーフレットの作成	在宅療養に関する普及啓発のため、在宅療養リーフレットを作成の上、配布する。	キ 地域住民への普及啓発	配布	B	令和2年度に改訂を行い、市ホームページへの掲載及び介護福祉課窓口にて配布。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、チラシ等の配架を中止している医療機関が多く、十分に配布が進んでいない。今後、状況を見定めて可能な限り配布を行っていく。

令和3年度小金井市在宅医療・介護連携推進に係る研修の実施状況について

1 在宅療養推進事業

No.	開催日時	内容		参加者数
1	令和3年10月20日	第10回多職種連携研修会	特別養護老人ホームについて学ぼう！	35人
2	令和4年1月26日	第1回看取り講演会	対話から始めるACP～現状確認ツールIMADOKOを活用した事例とグループワーク～（全2回）	50人
3	令和4年2月2日	第2回看取り講演会	対話から始めるACP～現状確認ツールIMADOKOを活用した事例とグループワーク～（全2回）	38人
4	令和4年2月16日	ICT研修会	MCSに関する研修会	28人
5	令和4年3月1日	第11回多職種連携研修会	通所介護について学ぼう！	30人

2 在宅医療・介護連携推進事業

No.	開催日時	内容		参加者数
1	令和3年6月23日	第19回在宅医療ケア勉強会	訪問リハビリって何ができるの？どんな人が受けたらいいの？作業療法士が行う認知症ケアって？	24人
2	令和3年9月8日	第20回在宅医療ケア勉強会	在宅訪問管理栄養士さんの役割を知っていますか？	31人
3	令和3年11月16日	第21回在宅医療ケア勉強会	認知症の人を支える地域の”輪”作り	17人
4	令和3年11月17日	ICT研修会	みまもりあいアプリについて知ろう！	37人
5	令和4年1月18日	第22回在宅医療ケア勉強会	訪問看護、医療保険と介護保険どう使い分けるの？	29人

小金井市在宅医療・介護連携支援室 令和3年度 事業概要

1 在宅医療・介護連携に関する相談件数

医療機関				介護事業所				合計
病院	診療所	歯科	薬局	ケアマネジャー	訪問看護	訪問介護	その他	
5	2	0	2	13	6	0	12	40

2 在宅医療・介護連携に関する研修の実施状況

	開催日時	内容	参加者										合計
			医療関係者					介護関係者					
			医師	歯科医師	薬剤師	看護師	MSW	その他	ケアマネジャー	訪問看護	介護職	その他	
第1回	令和3年 6月23日	訪問リハビリってなにができるの？どんな人が受けたいの？作業療法士が行う認知症ケアって？	2	0	4	0	0	7	5	0	3	3	24
第2回	令和3年 9月8日	在宅訪問管理栄養士さんの役割を知ってますか？	1	1	4	0	0	14	6	2	2	1	31
第3回	令和3年 11月16日	認知症の人を支える地域の“輪”作り	0	0	7	1	1	0	8	0	0	0	17
第4回	令和4年 1月18日	訪問看護、医療保険と介護保険どう使い分けの？	1	0	2	0	0	0	14	7	5	0	29

3 関係機関の情報共有に関する研修の実施状況

	開催日時	内容	参加者										合計
			医療関係者					介護関係者					
			医師	歯科医師	薬剤師	看護師	MSW	その他	ケアマネジャー	訪問看護	介護職	その他	
第1回	令和3年 11月17日	「みまもりあいアプリについて知ろう！」	4	2	5	0	2	0	10	2	8	4	37

4 その他

- ・在宅医療ケア勉強会(旧ケアマネ勉強会)開催(6/23、9/8、11/16、1/18)
- ・会議等出席(小金井市在宅医療・介護連携推進会議、三市看護責任者及び地域医療支援会議、武蔵野赤十字病院会議杏林在宅医療緩和ケアカンファレンス、小金井市地域包括ケア研究会ほか)
- ・視察等(武蔵野市・西東京市・国分寺市・三鷹市ほか)
- ・部会運営(日常療養支援・多職種連携研修部会、入退院支援部会、急変時対応・看取り支援部会、ICT連携部会)
- ・多職種連携研修会の開催準備等
- ・看取り講演会開催 等

令和 4 年度における各事業実施予定について

※ 小金井市在宅医療・介護連携推進のための基本方針（令和 2 年 1 0 月）から抜粋

【基本理念①】市民の視点に立ち、ともに考えながら、地域で安心して暮らせるよう医療・介護を提供する。

取組	①-1 小金井市医療資源マップの作成			
事業概要	市民に医療資源に関する情報を提供するため、医療資源マップを作成の上、配布する。			
事業区分	ア 地域の医療・介護の資源の把握			
成果指標	令和 2 年度 作成・配布	令和 3 年度 配布・検討	令和 4 年度 →	令和 5 年度 作成・配布

取組	①-2 介護サービス事業所一覧の作成			
事業概要	市民に介護資源に関する情報を提供するため、介護サービス事業所一覧を作成の上、配布する。			
事業区分	ア 地域の医療・介護の資源の把握			
成果指標	令和 2 年度 作成・配布	令和 3 年度 →	令和 4 年度 →	令和 5 年度 →

取組	①-3 患者基本情報シートの作成			
事業概要	入院時に病院が使用することを想定した患者基本情報シートを作成し、ケアマネジャーへ配付の上、運用を開始する。			
事業区分	ウ 切れ目のない在宅医療と在宅介護の提供体制の構築推進			
成果指標	令和 2 年度 検討・周知	令和 3 年度 運用	令和 4 年度 →	令和 5 年度 運用・見直し

【基本理念②】 医療・介護の関係者が相互の立場を理解し、協力する。

取組	②-1 在宅医療・介護連携推進会議の実施			
事業概要	地域の医療・介護関係者等が参画する会議を開催し、在宅医療・介護連携の現状を把握・共有し、課題の抽出、対応策を検討する。			
事業区分	イ 在宅医療・介護連携の課題の抽出と対応策の検討			
成果指標	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	実施	→	→	→

取組	②-2 小金井もの忘れ相談シートの活用			
事業概要	認知症に関する家族・相談機関が連携して支援を続けるための相談シートの普及啓発を行う。			
事業区分	エ 医療・介護関係者の情報共有の支援			
成果指標	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	運用・普及啓発	→	→	→

取組	②-3 主治医連絡票の活用			
事業概要	主治医とケアマネジャーが共有し連携を取りやすくするため、連絡票の普及啓発を行う。			
事業区分	エ 医療・介護関係者の情報共有の支援			
成果指標	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	運用・普及啓発	→	→	→

取組	②-4 ケアマネタイムの活用			
事業概要	医師と連絡が取りやすい方法、曜日、時間帯等を示した一覧の周知を行う。			
事業区分	エ 医療・介護関係者の情報共有の支援			
成果指標	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	運用・普及啓発	→	→	→

取組	②-5 情報共有研修会の実施			
事業概要	医療・介護事業者等の関係機関の情報共有に関する研修の開催、関係機関同士の情報共有の支援等を行う。			
事業区分	エ 医療・介護関係者の情報共有の支援			
成果指標	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	実施	→	→	→

取組	②-6 在宅医療・介護連携支援室の設置			
事業概要	在宅医療・介護連携に関する相談窓口を設置・運営することにより、連携の取組を支援する。			
事業区分	オ 在宅医療・介護連携に関する相談支援			
成果指標	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	実施	→	→	→

取組	②-7 在宅医療ケア勉強会の実施			
事業概要	医療・介護事業者等の関係者に対して在宅医療・介護連携に関する研修等を実施する。			
事業区分	カ 医療・介護関係者の研修			
成果指標	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	3回以上実施	→	→	→

取組	②-8 北多摩南部保健医療圏リハビリテーション実施機関ナビの作成協力及び普及啓発			
事業概要	北多摩南部保健医療圏地域リハビリテーション支援センターが作成する実施機関ナビの作成協力・普及啓発を行う。			
事業区分	ク 在宅医療・介護連携に関する関係市区町村の連携			
成果指標	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	普及啓発	→	→	→

取組	②-9 近隣市在宅医療・介護連携支援室等との情報交換			
事業概要	近隣市の在宅医療・介護連携支援室職員との情報交換を行い、自治体間での連携を強化する。			
事業区分	ク 在宅医療・介護連携に関する関係市区町村の連携			
成果指標	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	検討・実施	実施	→	→

【基本理念③】 本人・家族に適切に情報を提供し、自己決定を支える。

取組	③-1 お元気サミット in 小金井の開催			
事業概要	在宅医療・介護連携に関する情報の普及啓発のため、講演会、シンポジウム等を開催する。			
事業区分	キ 地域住民への普及啓発			
成果指標	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	講座満足度 75%	講座満足度 77%	講座満足度 78%	講座満足度 80%

取組	③-2 在宅療養についてのリーフレットの作成			
事業概要	在宅療養に関する普及啓発のため、在宅療養リーフレットを作成の上、配布する。			
事業区分	キ 地域住民への普及啓発			
成果指標	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	作成・配布	配布	→	→

小金井市在宅医療・介護連携推進会議各部会における検討状況について

	日常療養支援・多職種連携研修部会	入退院支援部会	急変時対応・看取り支援部会	I C T連携部会
開催日	令和3年度第3回：令和4年3月3日（木） 令和4年度第1回：令和4年6月3日（木）	令和3年度第3回：令和4年3月10日（木） 令和4年度第1回：令和4年6月16日（木）	令和3年度第4回：令和4年3月18日（金） 令和4年度第1回：令和4年5月27日（金）	令和3年度第3回：令和4年3月2日（水） 令和4年度第1回：令和4年5月11日（水）
目指す姿	本人が安心できる場所で専門職の支援を受けながら穏やかに暮らすことができる。	入退院の際に、医療機関・介護事業所等が情報共有を行うことで、本人・家族が望む場所で、不安なく穏やかに日常生活を過ごすことができる。	各ステージで食支援に対応できるチームが増えるとともに、本人・家族が納得できる看取りに向けて準備ができる。また、自宅か病院かで心が揺れていても、希望に応じた選択ができるように体制を整える。	【部会としての目指す姿】 医療と介護の連携をI C Tにてそれぞれ円滑に行うようにする。
検討状況の概要	【令和3年度第3回】 ①第11回多職種連携研修会の振り返り、第12回多職種連携研修会の検討を行った。 ②日常療養時における目指す姿達成に向け、現状の把握、課題の抽出、課題が生じている背景や原因の検討、課題解決策の検討を行った。 【令和4年度第1回】 ①第12回多職種連携研修会の検討を行った。 ②日常療養時における目指す姿達成に向け、課題解決策の検討を行った。	【令和3年度第3回】 入退院支援時における目指す姿達成に向け、現状の把握、課題の抽出、課題が生じている背景や原因の検討、課題解決策の検討を行った。 【令和4年度第1回】 入退院支援時における目指す姿達成に向け、課題解決策の検討を行った。	急変時対応・看取り支援時における目指す姿達成に向け、「医療・介護従事者向け看取り講演会」、「医療機関向けアンケート」、「市民講座」及び「パンフレット作成」を実施することを決定済み。部会では、その具体化へ向けて検討を行った。 【令和3年度第4回】 ①看取り講演会の振り返りを行った。 ②医療機関向けアンケートに係る検討を行った。 ③市民講座に係る検討を行った。 ④パンフレットに係る検討を行った。 【令和4年度第1回】 ①看取り講演会に係る検討を行った。 ②市民講座に係る検討を行った。 ③パンフレットに係る検討を行った。	【令和3年度第3回】 ①MCSに係るI C T研修会の振り返りを行った。 ②他部会の検討状況について、報告を行い、MCSの運用ルール等について、検討を行った。 ③令和4年度のI C T研修会の検討を行った。 ④医療・介護従事者向けI C Tに係るアンケート結果の共有を行った。 ⑤地域包括支援センターが患者グループに入る際の検討を行った。 【令和4年度第1回】 ①MCSの運用ルール変更に係る報告を行った。 ②令和4年度のI C T研修会の検討を行った。
決定事項等	①第12回多職種連携研修会は「地域包括支援センターについて」、第13回は「地域包括ケア病棟について」をテーマとする。 第12回の日程は10月17日の週頃とし、8月末までに日程を確定する。 ②事務局にて地域包括支援センターの周知の手段等を検討・整理し、MCSにて報告するとともに、当該内容にて承認いただければ周知を実施することとした。	小金井市版の「退院支援・退院調整フロー図」を作成していくこととした。	部会員を「市民講座担当」と「パンフレット担当」に分け、個別に検討を行っている。	①令和4年3月2日付けでMCS運用ポリシーを改正。訪問看護指示書を交付された事業所の看護師が患者グループの立上げと管理ができるようにした。 その他に誓約書、登録申込書等を一部改正した。 ②MCSの研修会を10月12日（水）に実施する。 ③下半期にL I F Eに関する研修を実施することとし、小介連と合同での実施に向け検討を行うこととした。
次回	第2回：令和4年11月2日（水）	第2回：令和4年9月15日（木）	第2回：令和4年7月27日（水）	第2回：令和4年8月3日（水）

会 議 録				
令和3年度第3回 日常療養支援・多職種連 携研修部会	日 時	令和4年3月3日(木) 午後7時～午後8時40分	場 所	Web会議
事務局	小金井市福祉保健部介護福祉課			
出 席 者	委 員	部会長 榎本 光宏 (中町ヘルパーステーション) 副部会長 伊藤 直樹 (みずたま介護ステーション) 部会員 穂坂 英明 (前原診療所) 部会員 平田 晋一 (平田歯科医院) 部会員 古屋 裕康 (日本歯科大学口腔リハビリテーション多摩クリニック) 部会員 田村 亮一 (みなみ調剤薬局) 部会員 當山 典子 (小金井訪問看護ステーション) 部会員 柳堀 明久 (陽なたりハビリデイサービス) 部会員 久野 紀子 (にし地域包括支援センター)		
	事務局	介護福祉課包括支援係主任 木津 恵美子 介護福祉課包括支援係主任 岡崎 章尚 小金井市在宅医療・介護連携支援室 川崎 恵美		
欠席者	なし			
傍聴の可否	◎可 ・ 一部不可 ・ 不可	傍聴者数	0人	
傍聴不可・一部不可の場合の理由		—		
次 第				
1 開会				
2 議題				
(1) 第11回多職種連携研修の振り返り				
(2) 第12回多職種連携研修の検討・小研修会の実施に係る検討				
(3) 日常療養時における「市民への医療・介護資源についての情報提供」の課題等 について				
3 その他				
次回日程について				

1 開会

部会長挨拶の後、事務局から連絡事項の説明を行った。

2 議題

(1) 第11回多職種連携研修の振り返り

部会員から次のような意見・感想の発言があった。

ア 大規模事業所・デイケアの紹介も加えた方が良かった。

イ 写真や動画を用いた研修で様子が良く分かった。

ウ 研修参加者が固定化されており、新たな参加者を募る工夫が必要

エ Web方式においてもグループワークができると良い。

(2) 第12回多職種連携研修の検討・小研修会の実施に係る検討

ア 部会員から次のような意見があった。

(i) 1つの職種ではなく、連携事例に関する研修を実施してはどうか。

(ii) 事例検討は有益だが、プライバシーに係る課題がある。個人が特定されないように配慮する必要がある。

イ 第12回多職種連携研修は、令和4年8月後半に実施することとする。

ウ 第12回多職種連携研修の内容は、次回の部会で検討する。

(3) 日常療養時における「市民への医療・介護資源についての情報提供」の課題等について

事務局から資料2から資料5までを用いて説明した後、部会員から「現状」、「課題」、「課題が生じている背景や原因」について、発表があった。その結果、次のとおりまとめた。

【現状】

ア 市民へ情報が届いていない。各職種が、何ができるのか分からない。事業所ごとの特色が分からない。

イ 各事業所でパンフレット等作成しているが、比較できるものがない。

【課題】

ア 情報が集約できておらず、市民へ情報を届ける手法の検討が必要

イ 多職種間で、各職種は何ができるのか、事業所ごとにどのような特色があるのかについて理解を深める必要がある。

【課題が生じている背景や原因】

ア インターネット環境がない、あっても使いこなせない等、情報へのアクセス能力が低い高齢者へ情報が届けられていない。

イ 経費削減・事務の効率化等のため、かつて作成されていた介護サービス利用

ガイドブック等の冊子は、一覧のみの作成に簡素化されている。

【解決策（案）等】

ア 情報発信に当たっては、高齢者本人向けと介護者向け（子世代）向けで分けて考えても良いのではないか。

イ 事業所のパンフレットをPDF化してホームページに掲載する、事業所のリンクをホームページに付ける等はどうか。

ウ 困りごとが生じた際の最初に相談すべきところ（地域包括支援センター、市役所、民生委員等）の案内はできないか。例えば、地域包括支援センターの案内をイトーヨーカドーやコロナワクチンの接種会場ではどうか。

エ 本人が困っていない場合もあり、そういった方をどう支援するかの検討も必要ではないか。

3 その他

次回予定 令和4年6月3日（金）午後7時から

会 議 録					
令和4年度第1回 日常療養支援・多職種連 携研修部会		日 時	令和4年6月3日(木) 午後7時～午後8時40分	場 所	Web会議
事務局	小金井市福祉保健部介護福祉課				
出 席 者	委 員	部会長	榎本 光宏 (中町ヘルパーステーション)		
		副部会長	伊藤 直樹 (みずたま介護ステーション)		
		部会員	穂坂 英明 (前原診療所)		
		部会員	平田 晋一 (平田歯科医院)		
		部会員	古屋 裕康 (日本歯科大学口腔リハビリテーション多摩クリニック)		
		部会員	田村 亮一 (みなみ調剤薬局)		
		部会員	當山 典子 (小金井訪問看護ステーション)		
		部会員	柳堀 明久 (陽なたりハビリデイサービス)		
		部会員	久野 紀子 (にし地域包括支援センター)		
	事務局	介護福祉課包括支援係主査 濱松 俊彦			
	介護福祉課包括支援係主任 石井 哲平				
	小金井市在宅医療・介護連携支援室 川崎 恵美				
欠席者	なし				
傍聴の可否	◎可 ・ 一部不可 ・ 不可		傍聴者数	0人	
傍聴不可・一部不可の場合の理由			—		
次 第					
1 開会					
2 議題					
(1) 第12回多職種連携研修の検討・小研修会の実施に係る検討					
(2) 本部会の役割及び令和3年度の振り返り					
(3) 日常療養時における課題に対する解決策について					
3 その他					
次回日程について					

1 開会

部会長挨拶の後、事務局から連絡事項の説明を行った。

2 議題

(1) 第12回多職種連携研修の検討・小研修会の実施に係る検討

次のように検討を行った。

ア 研修内容について部会員から次のような意見があった。

(7) この3年間新型コロナウイルス感染症に振り回されている現状から、新型コロナウイルス感染症の影響や見えてきた課題、適切な対応について

また新型コロナウイルス感染症の影響でカンファレンスが実施できていないことからWEB上でのカンファレンスのデモンストレーション

(1) 地域包括支援センターの業務・相談内容や認知症カフェ等小金井市の現状について

(2) 訪問入浴のデモンストレーション

(3) 療養・地域包括ケア病棟について

(4) 訪問診療や訪問歯科等在宅医療について

イ カンファレンスのデモンストレーションを実施する場合、多職種がバランス良く参加する必要があること、グループワークはシステム上可能であるが、事前準備に時間を要することから次年度以降の検討とする。

ウ 新型コロナウイルス感染症に関しては市の研修でも実施済みであり、他にも受講機会があることが考えられる。

エ 研修内容は、第12回は地域包括支援センターについて、第13回は地域包括ケア病棟についてとする。なお、第12回については地域包括支援センターの管理者会議に諮った後に決定する。

オ 第12回の日程は10月17日の週頃とし、8月末までに日程を確定する。

(2) 本部会の役割及び令和3年度の振り返り

事務局から資料2及び資料3を用いて説明し、本部会の意義等について共有を図るとともに、令和3年度の振り返りを行った。

(3) 日常療養時における課題に対する解決策について

市民への医療・介護資源についての情報提供に関する課題・解決策について次のように検討を行った。

ア 高齢者は口コミによる情報を重視している。それぞれの事業所で対面による情報提供が効果的であると感じる。

イ かかりつけの患者やその家族に関する相談を受けた際や待合室から聞こえて

くる会話に対して地域包括支援センターへ繋ぐ等情報提供を行ったことはあるが、繋がるまでの情報収集・情報提供は課題であると感じる。また、孤独な方は一人でいたいから一人であることが多く、そのような方への情報提供に課題を感じる。

ウ 繋がった後にどこまで関与していくかも課題であると感じる一方で、多職種や他事業所との連携の重要性を感じている。

エ 地域包括支援センターでは情報が集約されているので、何かあれば地域包括支援センターへの情報提供を行っている。

オ 市としては困りごと等がある場合は市や地域包括支援センターへご相談いただきたいとしているが、上記の内容から地域包括支援センターの周知がまだ足りていないと感じている。事務局にて周知の手段等を検討・整理し、MCSにて報告するとともに、当該内容にてご承認いただければ周知を実施する。

3 その他

- (1) 次回予定 令和4年11月2日（水）午後7時から
- (2) 部会長から市外事業所への異動の報告があった。

会 議 録				
令和3年度第3回 入退院支援部会	日 時	令和4年3月10日(木) 午後7時～午後8時15分	場 所	Web会議
事務局	小金井市福祉保健部介護福祉課			
出席者	委 員	副部長 漆原 めぐみ (桜町病院) 部会員 瀬口 秀孝 (桜町病院) 部会員 野中 慎吾 (のなか歯科医院) 部会員 水越 新人 (日本歯科大学口腔リハビリテーション多摩クリニック) 部会員 佐藤 雅彰 (アトム薬局) 部会員 出川 恵美 (居宅介護支援事業所つきみの) 部会員 天野 秀達 (花物語こがねいナーシング) 部会員 高橋 徹 (ひがし地域包括支援センター)		
	事務局	介護福祉課包括支援係主任 岡崎 章尚 介護福祉課包括支援係主任 木津 恵美子 小金井市在宅医療・介護連携支援室 川崎 恵美		
欠席者	執行 真之 (ひがこ訪問看護ステーション) 富永 智一 (小金井ファミリークリニック)			
傍聴の可否	◎可 ・ 一部不可 ・ 不可	傍聴者数	0人	
傍聴不可・一部不可の場合の理由		-		
次 第				
1 開会				
2 議題				
入退院支援時における「関係者の情報共有・入院中情報等の可視化」の課題等について				
3 その他				

1 開会

- (1) 部会長挨拶の後、事務局から連絡事項の説明を行った。
- (2) 検討に当たっては、コロナ禍に特化することなく、一般的な入退院支援について検討することとし、必要に応じてコロナ禍の課題についても検討することとした。

2 議題

入退院支援時における「関係者の情報共有・入院中情報等の可視化」の課題等について

事務局から資料1から資料3までを用いて説明した後、部会員から「現状」、「課題」、「課題が生じている背景や原因」について、発表があった。その後、次のとおり意見があり、いただいた意見を踏まえ、事務局・正副部会長で持ち帰り、課題等について取りまとめることとした。

【現状】

- (1) 歯科、薬局等が退院前カンファレンスに呼ばれない。
- (2) 地域包括ケア病棟では入院後2週間程度で在宅に戻れるのか、施設を経由すべきなのか院内で情報共有を行っていることが多い。また、急性期病棟では入院後1週間から10日程度で在宅に戻れるのか、入院を継続するのか判断を行っていることが多い。
- (3) 病院によって退院前カンファレンスの実施時期が異なっている。
- (4) 家族から取得した情報と病院から取得した情報とで内容が異なることがある。また、病院相談員と看護師とで認識が異なることもある。
- (5) 入院中は病院での指導のもと薬を服用できているが、入院前後にきちんと服用できているか分からない。
- (6) 入退院時情報連携加算を取得するには要件があり、当該要件を満たすことが少ないため、加算を取得できていないことが多い。
- (7) 病院設備の問題からWebでの退院前カンファレンスは、まだ行われていない。家族とWebでつなぎ病状説明等を行うことはある。
- (8) 施設から病院へ連絡しても個人情報のため、本人情報を教えてもらえないことがあり、家族に連絡を取ることが多い。

【課題】

- (1) 多職種間で、どの時点で、どのような情報を共有していくか明確でない。
- (2) 訪問歯科・訪問薬局のイメージがわからない。

【課題が生じている背景や原因】

- (1) 歯科をカンファレンスに呼ぶ必要性が多職種に理解されていない。全身状態を歯科と共有する必要がないと考えられている。
- (2) 入院前後でかかりつけ薬局が変わる人もいる。例えば、これまでかかりつけ薬

局があった人も入院を契機に自宅付近の薬局へ変更する人もいる。

- (3) 退院時カンファレンスの対象者は、在宅サービス関係者からやりたいという意見があった場合に、実施することが多い。ほかには、新規で介護保険サービスを導入する方、入院前後で状態像が大きく変わる方が多い。
- (4) コロナ禍では退院前カンファレンスの参加者をケアマネに限る等、人数を制限して実施している。

【解決策（案）】

- (1) 薬局の得意分野を一覧にして、病院で選んでもらうのも良いのではないか。
- (2) 「入院後〇日経過したら多職種と情報共有を行う」等、病院でルールを決めてもらえると多職種の情報共有がスムーズにいくのではないか。

3 その他

次回予定 令和4年6月16日（木）午後7時から

会 議 録				
令和4年度第1回 入退院支援部会	日 時	令和4年6月16日(木) 午後7時～午後7時55分	場 所	Web会議
事務局	小金井市福祉保健部介護福祉課			
出席者	委 員	部会長 執行 真之(ひがこ訪問看護ステーション) 副部会長 漆原 めぐみ(桜町病院) 部会員 富永 智一(小金井ファミリークリニック) 部会員 水越 新人(日本歯科大学口腔リハビリテーション多摩クリニック) 部会員 佐藤 雅彰(アトム薬局) 部会員 出川 恵美(居宅介護支援事業所つきみの) 部会員 天野 秀達(花物語こがねいナーシング) 部会員 高橋 徹(ひがし地域包括支援センター)		
	事務局	介護福祉課包括支援係主任 岡崎 章尚 介護福祉課包括支援係主任 石井 哲平 小金井市在宅医療・介護連携支援室 川崎 恵美		
欠席者	瀬口 秀孝(桜町病院) 野中 慎吾(のなか歯科医院)			
傍聴の可否	◎可・一部不可・不可	傍聴者数	0人	
傍聴不可・一部不可の場合の理由		-		
次 第				
1 開会				
2 議題				
(1) 本部会の役割及び令和3年度の振り返り				
(2) 入退院支援における課題に対する解決策について				
3 その他				

1 開会

部会長挨拶の後、事務局から連絡事項の説明を行った。

2 議題

(1) 本部会の役割及び令和3年度の振り返り

事務局から資料2及び資料3を用いて説明し、本部会の意義等について共有を図るとともに、令和3年度の振り返りを行った。

(2) 入退院支援における課題に対する解決策について

前回抽出した「①多職種間で、どの時点で、どのような情報を共有していくか明確でない。」という課題と「②訪問歯科・訪問薬局のイメージがわからない。」という課題に対して解決策を検討し、次のような意見が出た。

ア 薬局の活用方法等について、周知が足りていないので、薬局として努めていきたい。

イ 入院を機に介護保険を利用する人と元々関わっていた人がいる。前者の場合、情報収集に時間が掛かるので、少し早めに退院情報を教えてほしい。

地域包括支援センターの場合、入院を機に介護保険の利用を始める人と関わることが多い。

ウ コロナ禍で面会ができず、きちんとアセスメントができていない状況で退院し、施設に入所する事例もある。退院後、在宅へ戻り、その後施設入所ということもあるので、在宅と施設の連携も重要

エ 歯科の必要性が本人・家族に理解されていない。勉強会等で専門職向けの周知も必要

オ 令和3年11月に東京都入退院時連携強化研修に参加した。その際の資料で「退院支援・退院調整フロー図」というものが配付された。小金井市版のフローチャートを作って多職種で共有してはどうか。その中に訪問歯科・訪問薬局に関する情報を加えても良い。

カ 入院中の情報・いつ頃退院できそうか等の情報は、病院内でも担当医しか分からない。医療連携室がうまく情報をつかめれば、多職種と情報連携が可能となる。

→ 上記の意見を踏まえて、今後、小金井市版の退院支援・退院調整フロー図を作成していくこととした。

3 その他

(1) 次回予定 令和4年9月15日(木)午後7時から

(2) 令和4年度から多摩クリニックと歯科医師会の会員とで医療支援協力チームを編成し、歯科医師会に訪問歯科の依頼があれば、迅速に対応できる体制を整えた。

会 議 録				
令和3年度第4回 急変時対応・看取り支援 部会	日 時	令和4年3月18日(金) 午後7時～午後8時12分	場 所	Web会議
事務局	小金井市福祉保健部介護福祉課			
出 席 者	委 員	部会長 大井 裕子 (桜町病院) 副部会長 譜久村 翔 (WLIFE訪問看護センター) 部会員 宮本 諭 (宮本内科医院) 部会員 黒田 俊太郎 (黒田歯科医院) 部会員 高橋 賢晃 (日本歯科大学口腔リハビリテーション多摩クリニック) 部会員 小嶋 理絵 (あんずケアプランセンター小金井) 部会員 大山 美奈子 (小金井太陽病院) 部会員 堀内 成浩 (ケアサービスステーション春風) 部会員 大岩 謙介 (グループホームのがわ) 部会員 高野 美子 (小金井きた地域包括支援センター)		
	事務局	介護福祉課包括支援係主任 岡崎 章尚 介護福祉課包括支援係主任 木津 恵美子 小金井市在宅医療・介護連携支援室 川崎 恵美		
欠席者	長澤 由起子 (薬剤師会)			
傍聴の可否	◎可 ・ 一部不可 ・ 不可	傍聴者数	0人	
傍聴不可・一部不可の場合の理由		-		
次 第				
1 開会				
2 議題				
(1) 1月26日・2月2日の看取り講演会のふり返しについて				
(2) アンケートの進捗状況について				
(3) パンフレットの作成について				
(4) 市民講座について				
3 その他				
次回日程について				

1 開会

事務局から連絡事項の説明を行った。

2 議題

(1) 1月26日・2月2日の看取り講演会のふり返りについて

事務局から資料1を用いて説明。看取り講演会として、医療・介護従事者を対象に、グループワークも行いながら実施した。現状確認ツールIMADOKOを活用した事例を交えて、がん患者や認知症患者の終末期、施設における終末期におけるACPの実施方法等について講義いただいた。

(2) アンケートの進捗状況について

(3) パンフレットの作成について

(4) 市民講座について

事務局から資料2及び資料3を用いて説明した後、次のとおり協議を行った。

ア 市民講座について

- (ア) 令和4年度のお元気サミットは、11月9日・10日に実施予定である。そこまでに時間を掛けて検討していきたい。
- (イ) 以前に作成した動画など既にある素材を持ってきて配信するのも良い。
- (ロ) どのようなアイデアがあるか、次回の部会までの宿題としたい。
- (ハ) 市民講座の内容を見てもらった上で、アンケート等で意見を聴いていきたい。
- (ニ) 色違いの上げ札等を使い、講座を見ている人の意見を聴取し、ディスカッションしていくのも良い。
- (ホ) 平成30年度に行った寸劇のDVDを委員間で回覧することとする。
- (ヘ) 自宅で看取ることの意義について、市民の方に伝えていきたい。
- (ヘ) 独居の方でも自宅で看取りができることを伝えていきたい。
- (ヘ) 看取りに際して、家族の心情を大切にすることができることを伝えていきたい。
- (コ) 可能であれば、市役所第二庁舎1階のモニターで、部会での活動等を発信していきたい。

イ パンフレットの作成について

- (ア) パンフレットは、市民向けで簡単なものが良い。
- (イ) 東京都福祉保健局発行の「施設での日常から看取りを支えるパンフレット」を参考に作成していく。
- (ロ) 急な体調悪化の際の選択肢として、フローチャートに図や絵を使って本人や家族にとって分かりやすいものを作りたい。

- (エ) パンフレットは、高橋委員と譜久村委員の作成した資料を各委員が確認できるようにデータで送ることとし、そこに皆で手を加えて考えていく。
- (オ) 自宅で亡くなる際の救急車を呼ぶことのメリット・デメリットを市民の方に理解してほしい。
- (カ) どのような際に救急車を呼んだ方がいいのか等について記載していきたい。

3 その他

- (1) 2(4)ア(ロ)の市役所1階のモニターの利用については、市にて確認する。
- (2) 平成30年度の寸劇のDVDをそのまま公開することは、出演者の同意が必要になり、既に退職されている方もいるので、同意を取るのは難しい。
- (3) 平成30年度の台本を再度利用できるかどうかについては、市にて確認する。
- (4) パンフレット担当と市民講座担当のグループを作り、MCSを通じて意見を出し合い、次の部会までに検討を進めることとする。なお、グループ分けについては次のとおり（敬称略）
 - ア パンフレット担当 大井、譜久村、大岩、高橋
 - イ 市民講座担当 大井、宮本、黒田、小嶋、大山、堀内、長澤、高野
- (5) 次回予定 令和4年5月27日（金）午後7時から

会 議 録				
令和4年度第1回 急変時対応・看取り支援 部会	日 時	令和4年5月27日(金) 午後7時～午後8時15分	場 所	Web会議
事務局	小金井市福祉保健部介護福祉課			
出 席 者	委 員	部会長 大井 裕子 (桜町病院) 副部会長 譜久村 翔 (WLIFE訪問看護センター) 部会員 宮本 諭 (宮本内科医院) 部会員 黒田 俊太郎 (黒田歯科医院) 部会員 高橋 賢晃 (日本歯科大学口腔リハビリテーション多摩クリニック) 部会員 長澤 由起子 (薬剤師会) 部会員 小嶋 理絵 (あんずケアプランセンター小金井) 部会員 大山 美奈子 (小金井太陽病院) 部会員 堀内 成浩 (ケアサービスステーション春風) 部会員 大岩 謙介 (グループホームのがわ) 部会員 高野 美子 (小金井きた地域包括支援センター)		
	事務局	介護福祉課包括支援係主任 岡崎 章尚 介護福祉課包括支援係主任 木津 恵美子 介護福祉課包括支援係主任 石井 哲平 小金井市在宅医療・介護連携支援室 川崎 恵美		
欠席者				
傍聴の可否	◎可 ・ 一部不可 ・ 不可	傍聴者数	0人	
傍聴不可・一部不可の場合の理由		—		
次 第				
1 開会				
2 議題				
(1) 小金井市における本部会の役割について				
(2) 各検討課題の進捗状況について (市民講座、パンフレット、アンケート)				
(3) 看取りに関する講演会について				
3 その他				
次回日程について				

1 開会

事務局から連絡事項の説明を行った。

2 議題

(1) 小金井市における本部会の役割について

事務局から資料2を用いて説明し、本部会の意義等について共有を図った。

(2) 各検討課題の進捗状況について（市民講座、パンフレット、アンケート） 事務局から資料3及び資料4を用いて説明し、次のとおり協議を行った。

ア 市民講座について

部会員にて作成した台本を読んだ後、次のとおり協議を行った。

- (ア) 母を看取るまでの私の頭の中という題で、ナレーションベースで物語を進め、途中で質問を提示し、来場された方にマイクを向け回答してもらい、それに対する解説を行う形式で検討を進めている。
- (イ) ストーリーや質問内容はよくまとまっていると思う。
- (ロ) 今後回答や解説についてもある程度台本としてまとめる必要がある。また、専門の方の意見を聞きに来ている人も多くいると想定されるため、市民の回答や意見が長くなりすぎないように質問内容を調整する必要がある。
- (ハ) 自分だったらこういう説明を家族にしてもらいたいという内容や訪問歯科、訪問薬剤師、地域包括支援センター、医療費に関する質問や説明を今後台本に付け足す。

イ パンフレットの作成について

部会長にて作成中のパンフレットを共有し、次のとおり協議した。

- (ア) 次の6ページ構成で検討をしている。今後文字やイラストの統一等を行っていく。
 - P 1 川の流れて例えて看取りまでの経過を記載
 - P 2 パンフレットを作成した理由と併せて、4つの死へのパターン、医科歯科連携が進んでいることを記載する
 - P 3 急な体調悪化時の対応（救急車を呼ぶ／医師に来てもらう）
 - P 4 治る見込みのないがん等の場合や老衰で延命治療を望まない場合の準備や対応について
 - P 5 自然に死を迎えるとはどういうことか
 - P 6 食べられなくなること、歯科の関わりについて
- (イ) 市民講座とリンクするところがあるので、パンフレットを見ながら市民講座で説明ができるとより理解が深まると思う。
- (ロ) 食べられなくなってきたときの案内はどのようにしているのか。

→食べることが誤嚥等のリスクになる時期が来る。家族には徐々に食べられなくなることを受け入れてもらう必要が出てくる。がんと非がんで対応は異なるが、どんな工夫をしたら食べられるかを提案している。

ウ アンケートについて

部会長より次の(7)のとおり状況報告した後、部会員から次のとおり意見があった。

(7) アンケートについては実施済みであり、回答も集まってきている。今後部会として提言をするか等については医師会でも検討していく。

(8) 訪問診療医を選ぶときに、どの先生にして良いか迷うことがある。

→医師会が出している訪問診療医の一覧から疾患により選んでもらえば良いが、まずはかかりつけ医と相談してもらうのが良いと思う。

(3) 看取りに関する講演会について

事務局から資料1を用いて説明し、テーマや日程については引き続き検討することとなった。

3 その他

次回予定 令和4年7月27日(水) 午後7時から

会 議 録				
令和3年度第3回 ICT連携部会	日 時	令和4年3月2日(水) 午後7時30分～午後8時43分	場 所	Web会議
事務局	小金井市福祉保健部介護福祉課			
出席者	委員	部会長 田中 功一(田中整形外科) 副部会長 戸原 雄(日本歯科大学口腔リハビリテーション多摩クリニック) ※1 部会員 橋詰 雅志(歯科診療室 橋詰) 部会員 中原 昌則(伯雲堂薬局) ※2 部会員 前田 芳博(指定居宅介護支援事業所赤とんぼ) 部会員 曾我 信也(パーソナルケアサービス小金井かいわい) 部会員 清水 智恵(訪問看護ステーション国立メディカルケアサテライト) 部会員 田口 重和(みなみ地域包括支援センター)		
	事務局	介護福祉課包括支援係主任 岡崎 章尚 介護福祉課包括支援係主任 木津 恵美子 小金井市在宅医療・介護連携支援室 川崎 恵美		
欠席者	内山 雅之(うちやまクリニック) 立岡 慎哉(桜町聖ヨハネホーム) 齋藤 優喜子(桜町病院)			
傍聴の可否	◎可・一部不可・不可		傍聴者数	0人
傍聴不可・一部不可の場合の理由			—	
次 第				
1 開会 2 議題 (1) ICT研修会の振り返り (2) 各部会の検討状況について (3) ICT連携部会アンケート結果を踏まえた令和4年度に向けた検討課題の抽出について 3 その他				

1 出欠確認

2 議題

(1) ICT研修会の振り返りについて

事務局から資料1について説明した後、部会員から次のとおり意見があった。

ア 良かった事例を発表する際にパワーポイント等を使用して、一つの事例を時間をかけて深く発表した方が良かった。

イ MCSの研修会についてはICT連携部会だけではなく、他の部会へも出向いてMCSの研修会を行ってはどうか。

ウ MCSの登録者の名簿等がすぐ分かり、自分が関わっている利用者の主治医がMCSに登録しているか確認できるとグループが作りやすいと思う。⇒MCSの登録者を検索することができるので、名前で検索してもらえると探し出せる。

エ MCSに歯科医師がどのように参加してほしいのか教えてほしい。

オ 歯科医師会へMCSの講習会を開いていただくこともできる。(エンブレースへ依頼した場合、講師料は必要だが。)

(2) 各部会の検討状況について

事務局から資料2について説明した後、部会員から次のとおり意見があった。

ア ケアマネが各利用者と契約する際に個人情報の取扱い同意書は各事業所で取っていると思うが、MCSの利用に関する同意書については契約の段階では取っていない。

MCSの利用に関する同意を契約書の中に盛り込むのは難しいため、同意書の書式を市のホームページからダウンロードできるようにしてほしい。ケアマネの間で浸透してくると未利用のケアマネもMCSに参加しやすくなるのではないかと思う。

イ 他市では、MCSの管理者について、医師とケアマネに加えて主治医の指示のもと訪問看護師も行えるところもある。当市でも同様の運用を図ることで、MCSの参加が活発になるのではないかと考える。

ウ 病院によっては病院自体でMCSの参加ができないところもあるので、訪問看護師が管理者になって患者グループを作れるとよいと思う。

エ 訪問看護師への管理者権限を付与しているようMCSの運用ポリシーの改訂も考えている。医師会の理事に図って進めていきたい。

オ 現在の親会議や部会は市が設置しているが、令和2年度までは医師会主体で行っていた地域包括ケアシステム研究会で検討していたため、今でも医師会が主体で会議を行っていると思っている方がおり、MCSの運営主体についても今後話し合いをしていきたい。

(3) L I F E の研修会について

部会長から「令和4年度の研修会について、L I F E の研修会を行いたいと考えている。どなたかL I F E の演者の方を推薦してもらえないかと考えている。」と説明

(4) I C T 連携部会アンケート結果について

資料3を配布。各自で確認することとした。

3 その他

各地域包括支援センターでM C S の患者グループに参加した場合に、どのような事例で参加してほしいと考えるか部会員に意見を求め、次のとおり意見があった。

(1) 虐待事例

(2) 困難事例（在宅独居のケース等）

5 その他

次回予定 令和4年5月11日（水）19：30～

会 議 録				
令和4年度第1回 ICT連携部会	日 時	令和4年5月11日(水) 午後7時30分～午後8時30分	場 所	Web会議
事務局	小金井市福祉保健部介護福祉課			
出席者	委員	部会長 田中 功一 (田中整形外科) 副部会長 戸原 雄 (日本歯科大学口腔リハビリテーション多摩クリニック) 部会員 内山 雅之 (うちやまクリニック) 部会員 橋詰 雅志 (歯科診療室 橋詰) 部会員 中原 昌則 (伯雲堂薬局) 部会員 曾我 信也 (パーソナルケアサービス小金井かいわい) 部会員 田口 重和 (みなみ地域包括支援センター)		
	事務局	介護福祉課包括支援係主任 岡崎 章尚 介護福祉課包括支援係主任 木津 恵美子 介護福祉課包括支援係主任 石井 哲平 小金井市在宅医療・介護連携支援室 川崎 恵美		
欠席者	前田 芳博 (指定居宅介護支援事業所赤とんぼ) 清水 智恵 (訪問看護ステーション国立メディカルケアサテライト) 立岡 慎哉 (桜町聖ヨハネホーム) 齋藤 優喜子 (桜町病院)			
傍聴の可否	◎可 ・ 一部不可 ・ 不可	傍聴者数	0人	
傍聴不可・一部不可の場合の理由		—		
次 第				
1 開会				
2 議題				
(1) 小金井市における本部会の役割について				
(2) 各部会の進捗状況について				
(3) 今年度のICT研修会について				
3 その他				

1 出欠確認

2 議題

(1) 小金井市における本部会の役割について

事務局から資料2について説明した後、部会員から次のとおり意見があった。

ア 資料3の「目指す姿」の欄については資料2の目指す姿と記載を合わせるようお願いをしたい。

(2) 各部会の進捗状況について

事務局から資料3について説明した後、部会員から次のとおり意見があった。

ア MCSの運用について資料2の「その他決定事項等」のとおり変更する。当該変更について、親会議に諮る必要があるか在宅医療・介護連携推進会議委員長に確認したところICT連携部会にて決定して良いとのことであった。

イ MCSの運用変更の反映については、こがねい医療介護連携ネットワークのサイト管理者と調整中である。

ウ 4月に4つの地域包括支援センターにMCSの説明を行った。なお、患者グループには既に参加できるようになっている。

(3) 今年度のICT研修会について

事務局から資料1について説明した後、部会員から次のとおり意見があった。

ア 今年度はLIFEの研修会のほかに、過去の部会でもMCSの研修は継続する必要があるとの意見があることから、MCSの研修会を行うこととしたい。

イ LIFEの研修会について、講師の紹介は受けられそうである。事務局内での話の中で、介護事業者連絡会から合同で行いたいとの話が出ている。

ウ 介護事業者連絡会と合同となると調整に時間を要することが想定されることから、MCSの研修会を先に実施し、LIFEの研修会を年明けとするのが良いと思う。

エ MCSの研修会は10月12日（水）午後7時から行う。市の施設ではWi-Fi環境がないため、会場は医師会館とする。ただし冒頭で市から挨拶をする等医師会主導とならないよう配慮する。

オ 研修の内容は、実機操作よりも、架空の症例等を用いてMCSの立ち上げ方法や立ち上げまでの流れのイメージを掴んでもらうような内容が良いと思う。研修の資料は、流れがわかるようなフローチャートやMCSの画面イメージになると考える。

カ 地域包括支援センターとしても、MCSにどのように参加していけば良いかが悩みとなっている。電話等他の手法でのやり取りが主となっているのが現状である。

キ 地域包括支援センターから医師全員がMCSに参加しているのかとの質問が

あったことを受け、内科医・外科医・整形外科医にはMCSへの参加を促していく。

ク 研修内容の詳細については部会長・副部会長・事務局にて検討を継続し、都度MCSにて情報共有する。

3 その他

次回予定 令和4年8月3日（水）午後7時30分～